



## 研究テーマ

- 1 ブルーベリー等の小果樹類の機能性成分に着目した品種改良
- 2 フィンガーライム等の特産カンキツの栽培利用
- 3 ブルーベリー葉エキス末の加工食品への利用



## 國武 久登

くにたけ ひさと  
農学部  
応用生物科学科  
生物機能科学講座

教授

## キーワード

ブルーベリー、ラズベリー、カンキツ、オリーブ、サツマイモ、くにさと35号、育種、増殖、栽培、果樹、組織培養、染色体、機能性成分、ポリフェノール、アントシアニン、カロテノイド、たね無し、花芽分化、エキス末、茶、葉粉末

特許情報・  
共同研究・  
応用分野など

- Ⅰ. 特許
  1. スノキ属植物の育苗方法 (特許 5177349 号)
  2. ブルーベリーの栽培方法 (特許第 5712672 号)

- Ⅱ. 品種登録
  - ブルーベリー
    - ・ ‘レッドパール’ 第 13303 号
    - ・ ‘ちくし鼻’ 第 24220 号
    - ・ ‘くにさと 35 号’ 第 21636 号 (葉専用品種)
    - ・ ‘みのうの輝’ 第 28228 号

- キイチゴ
- ・ ‘07RUBIXP01’ 第 21801 号 (ラズベリー)

## 研究概要

ブルーベリー、ラズベリーおよびカンキツなどの特徴ある果樹を材料として、南九州の温暖な気候に適した新品種の育成や栽培に関する基礎的研究を行っています。特に、アントシアニンやポリフェノールなどの機能性成分に注目し、付加価値の高い果樹品種の育成を目的として、在来野生種(地域植物遺伝資源)の利用にも取り組んでいます。

また、ラビットアイブルーベリーの葉専用品種‘くにさと35号’を育成し、その無農薬栽培による大量生産法を確立しています。現在、お茶だけでなく、エキス末や葉粉末も開発しており、機能性の高い食品加工物への幅広い利用について研究しています。

## 1 ブルーベリー等の小果樹類の機能性成分に着目した品種改良

ブルーベリーやラズベリー等のベリー類は人気が高く、特産果樹として注目されています(図1)。しかし、そのほとんどの品種は海外から導入された品種が多く、日本の温暖な気候に合ったものが少ないことから地域によっては栽培が困難です。そこで、日本に自生している里山植物を育種素材として、アントシアニン等の機能性成分を豊富に含み、減農薬栽培が容易な品種の育成を行っています。現在までに、在来野生種シャシャンボの形質をブルーベリーに導入し、機能性成分アントシアニン高含有の栽培品種‘みのうの輝’を開発しました。また、ナワシロイチゴの



図1 赤いブルーベリー

## 2 フィンガーライム等の特産カンキツの栽培利用

最近、オーストラリア原産のカンキツ・フィンガーライムの栽培が県内でも始まっています。細長い果実、丸いさじょう、そして独特の香りに特徴があり、幅広い食材に使われています(図2)。その栽培法はまだ開発途上であり、剪定、肥培管理などの課題があります。現在、品種を導入しながら、花芽分化や収穫期間などの調査をしています。

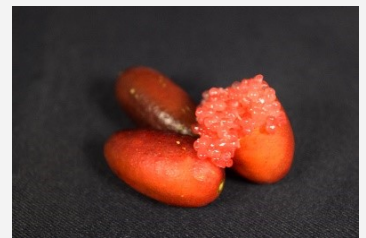


図2人気のフィンガーライム

## 3 ブルーベリー葉エキス末の加工食品への利用

ラビットアイブルーベリー‘くにさと35号’の葉に抗脂肪肝作用などの特徴ある機能性をもつことが明らかになっています。安全で高品質の葉からお茶、エキス末および葉粉末を開発しており、その利活用について研究をしています。

## ホームページ

植物遺伝育種学研究室

<https://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/plantbreeding/>

## 技術相談に応じられる関連分野

- ・ 果樹の品種改良、特に、組織培養による育種および増殖
- ・ ブルーベリー葉の栽培技術およびそのエキス末の食品素材としての利用

## メッセージ

- ・ 共同研究の希望テーマ：機能性成分に注目した果樹の品種改良
- ・ 「オリジナル果樹品種による地域振興」というニーズがあれば、ぜひ御連絡ください。
- ・ 「特産果樹を利用した地域活性化」を考えられている自治体等があれば御連絡ください